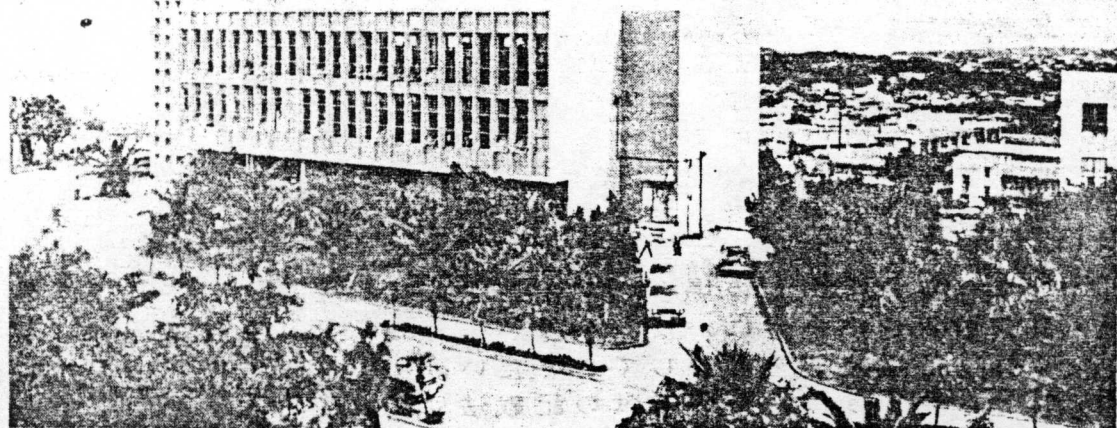


お り ぶ り



VOL. 8 NO. 3 The University of the Ryukyus Library Bulletin 1975.6.16

引用文献作成法

1. はじめに

学生のクラブ誌や、卒論、紀要の中に引用されている文献の記載の不備不統一については、以前にも本誌で書いたが、その多くは現在でも旧態依然として不備のままである。引用されている文献を図書館で確認したい時に、不備な記載だと、確認が不可能な場合がある。例えば次のような事実があった。ある有名な郷土史辞典の中に引用されている文献の所在を確認するために八方手をつくしたが、わからず、ついには文献そのものが実際に発行されたかどうかさえ疑はしくなってきた。そこで、編者に問合せたのであるが、あいにくと病床に伏されていて、聞くことができなかった。書誌的事項を完全に記載しておればこのようなことは起らなかったらう。

ともあれ、記載方法において最低限度の書誌的事項は是非具備して欲しいものである。

著者名（原著者、訳者、编者、団体著者）・書名（誌名）・出版地・出版者・出版年・引用箇所のパージ数等のどれか一つでも欠落すると、文献の確認が困難になり、引用する意味が半減する。

2. 引用文献とは

引用文献とは、論文を書くときに参照した文献の中で実際に引用したものを列記したものであり、参考文献とは、ある対象を研究し調査するのに必要と思われる文献を比較的広汎にとりあげたものである。(1)

既知の事実・知識について、その出どころを読者に明瞭に示すため、あるいは読者がそれをたどることによって、論文に示すことが客観的に実証できるようにするために、引用文献を明示するのである。(2) またそれは「自分の論文になにかのかたちで利用されたものの証拠を具体的に示すばかりが目的ではない。他の研究者が直接に文献を読むときの便宜のことも考えなければならぬ。あとの場合を考えに入れておくかどうかで、文献の引用の心がまえにかなりの差ができるものである」(3) ここでは特に後者の方を強調しておきたい。

このように、引用文献の記載法は論文作法において、極めて重要な位置を占めているといわねばならない。等閑視されてはならない所以である。

3. 引用文献の記載法

文献記載法は、上述したように必要な書誌的データを記載しておかないと、読者が判読に苦しみ、文献を捜し出すことが困難になる場合がある。記載法については、専門分野により、あるいは団体によりある程度まちまちであることは既に述べたとおりである。(4)

ここでは普通一般に用いられている方法を列記して、学生の参考に供したい。

■ 1 ■ 図書（単行本）を引用する場合の記載順位は次のようにする。

著者名（原著者・訳者、編者、団体著者を含む）・書名・
版次・出版地・出版者・出版年・ページ

1) 著者名

A) 著者が1人の場合

姓、名の順で記載する。編者には、和文資料の場合は「編」、欧文資料の場合はed. あるいはcomp. を付記する。団体による編著書は団体名をあげる。外国人の場合、姓と名の間に「,」を付する。なお姓名は、特に外国人については、出来るだけフルネームを書いた方がいいと主張する人もいる。(5) (6)

「例」

神島二郎：近代日本の精神構造。岩波書店，1972。p.165.

- Sherman, Howard: 革新の政治経剤学。宮崎犀一, 高賀義博訳。新評論, 1974。p. 75~78.

Butler, Pierce ed. : The reference function of the library. Chicago, Univ. of Chicago Press, 1943. p.15.

B) 著者が2人の場合

2人を、和文資料の場合はコンマで、欧文資料の場合はandで連記する。

「例」

石母田正, 松島栄一：日本史概説 I。岩波書店，1972。
p.215~218.

Zetler, Robert L. and Crouch, W. G. : Successful communication in science and industry. New York, McGraw-Hill, 1961. p.200~201.

C) 著者が3人以上の場合

主な編著者1人を記載し、「等」あるいは「等編」、and others またはet al を付記する。

「例」

大島 清等：日本資本主義 I。東京大学出版会，1972。
p.125.

Crane, E. J. and others: A guide to the literature of chemistry. 2d ed. New York, Wiley, 1957. p.95.

2) 書名

書名は標題紙に表示されているとおりに記載する。ただし雑誌等の誌名で非常に長いものは、意味を変えずに省略してもよい。この場合は最初の単語あるいは文字を省略してはいけない。省略するときは・・・(三つ点)を使う。

3) 版表示

内容に改訂・増補を加えた図書には、それぞれの版表示に従って「改訂版」「第3版」「新訂7版」「増補版」「増訂版」、2d ed.、3d ed.、Rev. ed.、Rev. and enl. ed.

などと記載する。(注)

「例」

横浜国立大学現代教育研究所編：中教審と教育改革。増補版。三一書房，1974。p.58.

Mellon, M.G. : Chemical publications: their nature and use. 4th ed. New York, McGraw-Hill, 1965. p. 215~216.

(注)

わが国の出版界では「版」(edition)と「刷」(printing, impression)が混同して用いられている例が多いので注意されたい。辞典などで第13版とあって中味を比較してみたら第1版と変っていないという例が少なくない。この際は第13刷とすべきである。版の問題は書誌学的に重要なだけでなく、実際に本を探す場合に有力な手がかりとなるものである。特に自然科学や技術の方面では版次の古いものは有用性が減じるので、その明確な表示がどうしても必要になる(ア)

4) 出版事項

出版地、出版者、出版年の順にコンマで区切って記載する。ただし出版地が「東京」の場合は省略してもよい。また編著者と出版者が同一であれば出版者の表示は省略する。出版年は西暦に統一してもよい。

5) 対照事項

対照事項とは、ページ数と図書の大きさの記載事項のことであるが、引用文献の場合は大きさの表示は省略し、ページ数のみを記載する。

6) 双書注記

双書名および双書番号を対照事項(ページ数のあと)のつぎに()に入れて記載するが、不必要と思われる場合は省略してもよい。

■2■ 雑誌(逐次刊行物)に掲載されている論文の一部分を引用する場合は、次の記載順位で行う。

筆者名・標題(論文名)・誌名(論文記載資料名)・

巻,号・年,月・引用したページ

「例」

田中英夫, 潮見 俊隆 : 沖縄の土地収用令. 法律時報, 29 (10) [1957. 10], p.78.

Higa, Mikio : Okinawa; Recent political developments, Asian Survey, 3 (9) [Sept. 1963], p.417.

■ 3 ■ 引用文献の記載に用いられる略語・略符について。

op. cit. = 上掲書

opere citato : in the work cited の略。同じ著者の同じ著書または論文について、離れた箇所に記載する場合に用いられる。

「例」

- (1) 神島二郎 : 近代日本の精神構造. 岩波書店, 1972. p.200~201.
- (2) 宮城音弥 : 日本人とは何か. 朝日新聞社, 1972. p.85.
- (3) 神島二郎 : 上掲書 p.231.

ibid. = 同 書

ibidem : in the same place の略。同一の著作からの引用がひき続いてなされる場合 (ただしページは別)、直前の引用記入を繰り返す代わりに用いられる。

「例」

- (1) 神島二郎 : 近代日本の精神構造. 岩波書店, 1967. p.121~122.
- (2) 同書 p.125.
- (3) 同書 p.129.

- (1) Feller, W. : An introduction to probability theory and its applications. New York, Wiley, 1950. p.150.
- (2) *ibid.*, p.165.
- (3) Morse, P. M. : Stochastic properties of waiting lines, Journal of the Operations Research Society of America. Vol. 2, 1954. p.44.
- (4) Feller, *op. cit.*, p.210.
- (5) *ibid.* , p.240.

loc. cit. = 同 所

loco citato: in the place cited の略。同じ著書または論文の同じページを記載する場合に用いられる。

「例」

(1) 神島二郎：近代日本の精神構造。岩波書店，1972。
p.159.

(2) 北見俊夫：日本海上交通史の研究。鳴鳳社，1973。
p.181.

(3) 神島二郎：同所

(1) Saaty, Thomas L. : Mathematical theory of operations research. New York, McGraw-Hill, 1959.
p.345.

(2) loc. cit.

(3) Morse, P. M. : Queues, inventories and maintenance. New York, Wiley, 1958. p.65.

(4) Saaty, loc. cit.

4. むすび

引用文献の記載目的の一つは、「他の研究者が直接に文献を読むときの便宜のため」であることは前に述べた。引用された文献を他の人が確認する際に、書誌的データが不備であると図書館等へ行って調べてもみつからない例はよくある。著者と書名だけを記載して、出版者と出版年がないために、どこの出版者から、いつごろ出版されたのか皆目わからないのである。

引用文献の作成において、著者名・書名・出版者・出版年・巻数表示・引用箇所のパージ数の記載は重要かつ必須な事項である。

引用文献

(1) 藤川正信：第二の知識の本。新潮社，1963。p.316.

(2) 文部省大学学術局編：ドキュメンテーションハンドブック。東京電気大学出版局，1967。p.37.

(3) 緒方富雄：医学論文を書く人のために。南江堂，1968。
p.35.

(4) 本誌。Vol. 7, No. 4「1974. 6」，p.1~2.

- (5) 緒方富雄：上掲書 p.36.
- (6) 藤川正信：上掲書 p.313.
- (7) 同書 p.293～294.

参 考 文 献

〔右端 () 内の数字は本学図書館の分類番号である〕

- (1) Klopfer, Walter G. : 臨床心理学的レポート — 心理学的資料の使い方とその伝え方, 順天堂大学心理学グループ訳. 牧書店, 1968. 189p. (140. 7-K17)
- (2) 高橋達郎等：科学文献 — まとめ方・さがし方・利用の仕方. 南江堂, 1967. 180p. (407 -Ta33)
- (3) 田中義彦, 田中潔：科学論文の書き方, 訂正第23版. 華房, 1969. 374p. (407 -Ta84)
- (4) 富田軍二：科学論文のまとめ方と書き方. 朝倉書房, 1953. 209p. (407 -To58)
- (5) 牛島悦子, 佐森勝之助：科学文献 — まとめ方・さがし方・利用の仕方, 第2版. 南江堂, 1973. 258p. (407 -U93)
- (6) 生物学雑誌編集者協議会形式と文体に関する委員会編：医学・生物学論文のまとめ方のコツ. 久保田競, 中村嘉男共訳. 協同医書出版社, 1969. 131p. (460. 7-Se17)
- (7) 真島英信：医学論文と図表の書き方. 文光堂, 1968. 150p. (490. 7-Ma32)
- (8) 奥田邦雄等編, W. C. Caccamise 校閲：医学英語の書き方, 第4版. 医学書院, 1965. 679, 36p. (490. 7-054)
- (9) Hicks, Tyler：技術論文の書き方. 塩崎進, 宮川松男訳. 近代科学社, 1966. 398p. (507 -H54)
- (10) 平野 進：技術英文のすべて, 改訂増補版. 丸善, 1972. 581p. (507 -H66)
- (11) 河野徳吉：ISO・UNESCO基準による技術レポートの書き方. 日刊工業新聞社, 1970. 218p. (507 -Ko76)
- (12) 秋山 虔等：論文の書き方—国語・国文科学生のために—. 至文堂, 1960. 312p. (816 -A36)
- (13) 加田哲二：論文 答案・レポート — まとめ方と書き方. 慶応通信, 1965. 218p. (816 -Ka13)
- (14) 加田哲二：論文の書き方 — まとめ方と発表の仕方. 慶応通信, 1956. 203p. (816 -Ka13)
- (15) 三浦 修：論文・レポートの書き方. 実業之日本社, 1969. 224p. (816 -M167)
- (16) 佐藤孝一：博士・修士・卒業論文の書き方. 同文館, 1973. 160p. (816 -Sa85)

- (17) 清水幾太郎：論文の書き方。岩波書店，1964。214p。
 (岩波新書) (816 - Sh49)
- (18) 八杉龍一：論文・レポートの書き方。明治書院，1972。
 200p. (816 - Y16)
- (19) 永田正臣：経済論文作法。柏林書房，1960。250, 15p。
 (816. 6-N23)
- (20) 慶応義塾大学通信教育部編：卒業論文の手引。慶応通信
 1974。158p. (816. 8-K026)
- (21) 野田 二：卒業論文のテーマと書き方。研究社，1968。
 201p. (830. 7-N94)
- (22) 鳥居次好，宇山直亮：英語論文とレポートの書き方。
 英潮社，1972。188p. (830. 7-To67)
- (23) 日本図書館協会編：日本目録規則。1965。247p.
- (24) American Library Association ed. : A. L. A. Cata-
 logging Rules for Author and Title Entries.
 Chicago, 1949. 265p.
- (25) American Library Association編：英米目録規則 北米
 版，大内直之等訳。日本図書館協会，1969。405p.

琉球大学附属図書館報 びぶりお 第8巻第3号「通号32号」

昭和50年6月16日

発行人 平良 恵仁

沖縄県那覇市当蔵町3丁目1番地

電話 34-0101 (内333)